

82・2月

国字研ニユース

No. 5

国字問題研究会

発行人

委員長 内山みち子
副委員長 見城慶和

国字研編

『美しい日本語と漢字の教育』（あゆみ出版）

——読者の反きよう（省略過多、お許しを）

神奈川・今井徳子さん

『美しい日本語と漢字の教育』をさっそく近所の書店に申しこみました。拝読し、一言なりと感想も申しあげます。私も常用漢字に反対なのですが勉強不足のため、知人たちの意見に寄り切られそうになることが多く、今後は勉強をつづけます。どうぞよろしく……。

町田市・神尾式春さん

『美しい日本語と漢字の教育』感動をもって拝読。ただ最後の部分にテストに関するご報告があったことには疑問あり。テストしなければ、自分の学生の傾向も長短も分らぬとは悲劇ではないですか……。

同 二伸

常用漢字表は字数が多すぎることは同感。発

表後では字数の訂正は不可能と考え、せめて音訓の訂正を迫って「常用漢字表音訓語例の再考を訴える」で小生の抵抗を示しました。

愛媛県・河野満里さん

わたしは教育をしてきて四月に退職。この本を赤旗で知って入手、いくつかの感想を。

自分も「常用」の制度には大反対。しかしここに至った今は、反対運動よりも、漢字の学年配当を改めることが大切。また音訓は同時指導する必要。

P159に「漢字に熱心な教師はうだつのあがらぬ無能教師」ととれる表現があるが反対……。民主国家の担い手を育てるため、今後もご活躍を。広島市・島山兼人さん

国語政策右傾化の先兵と言える「常用漢字表」

への挑戦は毎度のことながら堂々の論陣で、同志の一人として千万の進軍ラッパの力強さです。同時に中学生から大学生に至る漢字学習力の実態報告は、今後、運動の貴重な資料と確信する次第です。私の大学（広島工大）図書館にも、早速二部購入しよう連絡しておきました。

大田区・宮田和美さん

先日の出版記念会でみなさまにお目にかかれて幸せ。知的好奇心とやる気だけはあつても私の私です。今後よろしく。あの翌日、すぐ友人にあの本を買ってもらいましたら、「これを機会に漢字問題を考えたい」とのこと。近いうちに本とパンフをもっと仕入れに伺うつもり……。

北区・大野健二さん

新聞で拝見。さっそく入会したいので、年会費二〇〇〇円お送りしました、よろしく。

板橋区・佐藤成子さん、茅ヶ崎市・沖山敏幸さん

国字問題研究会に入会希望、くわしいことをお知らせください。

清瀬市・永井慈子さんほか松井・山崎・阿部・加瀬・間さん

国字問題について学習会をしました。むずかしいと思っていたが共同学習で、読むことができた。廃語になっていた字が復活されている。わが子にふりかかってくるから今後も注意深く

見守っていただく”

東村山市・阿部笑子さん

朕・帥・爵・刃・勺などがどうして必要なのか。いろいろなことを示唆しているのでは？

広く世の人びとに気付かせたいと痛感しました。

高槻市・テラモトイズミさん

この本の主張には全面的に賛成。とくに、井

上尚美先生の章に深く共鳴。さすがにわかりやすく、格調高いすばらしい文章だと感銘をうけました。全体を読み終えてもの足りないのは、人名漢字の字種や訓よみ制限などにもふれる必要があると思いました。

国字問題は民主主義の問題、私も国語民主化運動に参加したいと望んでいます。

同 二伸

国語民主化は日本の民主主義と社会の進歩のための大切な事業です。たたかいはこれからです、何かできることをしていきたい。入会を申しこみます。関西での運動状況は？

葛飾区・奥村勝さん

新聞で知りました。最近の主なる活動は？

カナモジカイ『カナノヒカリ』十一月号に紹介。

『美しい日本語と漢字の教育』は、大久保忠利さんほか九人の国字研会員が書いています。

「みんなで声をあげ、一日も早く再び漢字を制

限し、使いやすい国字を国民のものにしよう”

とあとがきにあるように、各種の資料にもとづいて、常用漢字反対の理論を、はげしくとなえて

います。常用漢字答申までの不都合な経過をくわしく紹介し、教育と漢字の問題に多くのページをさいています。

墨田区・榎本喜久治さん

貴会編集の本を読みました。「字」に格別の興味をもつ者としてぜひ分学ばされました。

1. P 190の問題Cの正解は①意匠で「名匠」ではないでしょうか。

2. 貴会に参加する手続きを知りたいのですが。

官界新報社社長・津村卓男さん

私は、当用漢字の中でも削除したい字が多くあり、略字を多くしなければ、文章はスムーズには書けないという主張をつづけています。この本は、なるべく早目に紙上に紹介しようと思

います。

小田原・石井由紀夫さん

常用漢字表には怒りを感じている一人で、『美しい日本語と漢字の教育』を読みました。国語学者という人までが「漢字には造語力がある」などと、語と字をこちゃませにしてチャラッポコを言ってる時代です。この本のP 164以下の小林喜三男先生の実践はすばらしいと思います。

井上ひさしというモノカキは、民主的考えの持ち主のようですが、こと漢字に関してはまるっきり保守反動。文字をいじくりまわすのが商売の人にとって、むずかしければむずかしいほど読者に対してコケオドシがきいている、というのでしよう。

漢字とは、もともと、日本語と全く言語の構造がちがう中国語を書きあらわすためにつくられた文字です。たとえ漢字を一字も使わなくとも、美しくわかりやすいりっぱな日本語の文章が書ける、そのことこそ、プロのモノカキが主張すべきことです。

* * * * *

右のほか、数え切れないほどの読者から、電話または口頭で、ご感想やはげましのおことばをいただきましたが、残念ながらのせきれません。ありがとうございます。

今後、毎月の例会には、「美しい日本語と漢字の教育」をご持参ください。テキストとして執筆者が順次、解説いたします。ない方は、会場で入手もできます。



常用漢字表の強要は「教育勅語」復活への道

国字研副委員長 高柳正次

昨年十二月に、中学用の国語教科書を発行している、光村図書、教育出版、東京書籍、三省堂、学校図書が五社が、昭和五十九年度から使う改訂教科書では、常用漢字表のうち、中学校での学習に必要な漢字八十字については、本文中の教材として学習する「新出漢字」扱いにしないことで合意し、文部省に申し入れましたが、この八十字は、わたしたちの「現代漢字千五百字」の検討のなかでも、一般国民にとって不必要ということで削った字がほとんど含まれていました。

ところが、この申し入れを受けた文部省は、ことし一月十九日にこの五社の関係者を呼び、「教科書会社が漢字を制限的に取り扱うのは、常用漢字表の性格からいって好ましくない」とこの八十字も教材として載せるように、要求してきました。

これは、前々からわたしたちが指摘し、警告してきたように、児童・生徒の漢字学習上の負担を増すだけでなく、国民の言語生活に全く縁のないような漢字まで、たくさん水増しして答

申・告示された常用漢字表が、実は「漢字を制限的に扱う当用漢字表はけしからん。当用漢字表をたたきつぶせ」という意図から作られ「制限的な色彩の一掃」だけが、その真のねらいだったことを、文部省みずから立証したものと いえます。

「朕」や「璽」など、すでに死語となった漢字まで、教科書の本文中に載せさせるためには「教育勅語」を再復活でもさせない限り、教科書会社でも、編集のしようがないものです。それを文部省は載せると強要しているところに、見のがせない重大な問題があると思います。

常用漢字表は、軍備拡張と、そのための国民抑圧の臨調路線と一体となった国民への攻撃として、わたしたちも反撃の輪を広げましょう。

国字研のあゆみ

(前号からのつづき)

- 81・4・14 「常用漢字表答申の経過と福島会長の真意」 大久保 忠利
- 81・5・1 「常用漢字表」に対する反対声明

ならびに要望書作成・発送

- 81・5・12 「福田恆存の国字論をテープで聞いている話し合い」・後半総会
- 81・6・9 「常用漢字表批判」の原稿の中間報告と共同助言 執筆者たち
- 81・7・14 パンフ『漢字問題について真剣に訴える』発行の決定
- 81・7・21 パンフ普及分担と、「常用漢字表」反対の署名活動の決定
- 81・8・10 十五人の「教育用漢字調査研究協力者」に対しアピールを発送
- 81・9・8 「常用漢字表本答申までの内幕」 見城 慶和
- 81・9・9 ラジオ関東・「漢字教育はこれでよいか」の討論会に見城副委員長出席
- 81・9・13 「常用漢字表」に関する請願、国会の文教委員会に提出、七〇八名の賛同署名を添付、さらにその後二四〇名の追加署名を提出。
- 81・10・13 『美しい日本語と漢字の教育』出版記念会 出席21名
- 81・11・10 「今後の活動の計画」 全員
- 81・12・8 「今年の経過報告」 見城 慶和
- 82・1・12 国字研「楽しい新年会」 出席23名

国字問題研究会へのおさそい

日本語をわかりやすく美しい表記にするうえで功績のあった「当用漢字表」を廃止して強引に制定された「常用漢字表」は、再び漢字使用を野バナシにし、文化生活を破壊しようとするものです。

国語政策のこうした逆コースに反対して、国字研では、真に国民のための国字はどうあるべきかを真剣に検討し、国字研ニュースを発行したり、要望書や請願書、パンフ等を作成して民主的な国字政策を訴えつづけてきました。

こうした活動の成果をまとめて一九八一年十月には『美しい日本語と漢字の教育』という本を発行し大きな反響をよんでいます。

国字研では、毎月第二火曜日の夜、定例研究会を開いていますので、国字問題に関心のある多くのかたがたの参加をねがっております。今こそ、力を合わせて、民主的な国字政策を国民の側から打ち出していきましょう。

本 会 役 員 (82.1月現在)

委員長	内 山	み ち	子	(日本コトバの会副委員長)
副委員長	高 柳	正 次		(光陽印刷株式会社相談役)
"	見 城	慶 和		(荒川区立第九中学校二部教諭)
"	渡 辺	武		(日本コトバの会副委員長)
運営委員	井 上	尚 美		(東京学芸大学教授)
"	田 中	積		(日本コトバの会書記長)
研究参与	大久保	忠 利		(日本コトバの会委員長)
"	大 倉	孔 一		(日本コトバの会研究部長)
"	黒 滝	チカラ		(日本コトバの会評議員)

1年分会費 2,000円

キ リ ト リ セ ン

入 会 申 込 書

お名前	会に対してのご希望など自由にお書きください。
ご住所・電話	
勤務先・電話	